

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

2月中旬、大北地域は銀世界だが今シーズンのソフトボールの行事がスタートした。今年から2年間、新潟・富山・石川・福井・長野の各県協会が所属す

る北信越地区の当番が長野県になり、伊那市高遠で審判員・記録員の伝達講習会が開催された。顔なじみが年々多くなり、再会が楽しい講習会でもある。国際ルールは、4年に一度の改定で今シーズンは最終シーズン。大きな改正は無く、「国際ルールでは」の文字が各所に加わり、以後の改正を印象させた。

2日目に実施された実技講習は、各県のストライクゾーンに差が無いよう徹底した内容に。少し芽生えた判定の自信度も粉々になるほどに多くの指摘が審判員を指導する。多く

の大会での実践の必要性を多くの審判員が抱く内容に、今回の講習会の意義が伝わってくる。これまで、ソフトボールでは、試合終了後、対戦相手にお互いの健闘をたたえあう「あくしゅ」はさせて

りかどう」を検討する事になったのは、うれしい情報でもあった。色々な行事で大北地域から出掛ける事が多くなってきている。初めて訪れる場所、行って見たかった名所や郷土料理。今回の宿泊

くらの開花時期も限られていて、地域振興を目的とした施設運営には苦労が多いのだろうと思ってしまう。帰りの昼食に、有名な食堂の「ソースかつ丼」をこの誘いで立ち寄る。席は30席ほど。

## 味と営業方針がシッカリしていれば栄える、 営業現場に積極的に出掛けませんか

こなかった。しかし、日本体育協会は、フェアプレーの具体的な実践としての「あくしゅ」「あいさつ」「ありがどう」の実践を勧めている事もあり、ソフトボール界でも「あくしゅ・あいさつ・あ

は、高遠さくらホテル。伊那市観光株が経営して、伊那市長が社長を務める宿泊施設。施設もサービスにも参加者からは多くの苦情はなく、つるつるした泉質は好感が持てた。だが有名な高遠城址のさ

次から次へと訪れる客。席には、注文してから調理するので時間を要するとの告知。席に運ばれた丼の上には、評判通りのカツが丼一杯に。食べたカツの味は格別だった。誘ったメンバーは、今

回も食べきれないと持ち帰りのパックに満足顔で詰める。この満足感と、寄った事での話題のお土産が、「また来るね」の言葉を残すのだろう。決して営業箇所は、良いとは言え

ない場所でも知恵があれば、評判を生む現場に出合えた日でもあった。  
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



受講者は各県で伝達講習の指導に当たるメンバー、講師の指導内容を身に付けたいとの真剣さが伝わってくる